

— 『まち』もまたブランドである —

K
Kameyama 5th



三重県亀山市市勢要覧



平成22年1月11日、亀山市は市制施行5周年を迎えました。

平成17年、旧亀山市と旧関町の合併により誕生した亀山市は、面積190.91平方キロメートル、人口4万8千670人でスタートし、旧市町のそれぞれの特性を生かしながら、一体感を醸成し、液晶関連産業の集積や既存企業の活発な生産活動により、順調に発展をしてまいりました。そして、平成20年2月には、人口が5万人を超え、さらに新名神高速道路（亀山JCT—草津田上間^{たなかみ}）が開通、また平

成21年1月には、「亀山市歴史的風致維持向上計画」が「歴史まちづくり法」に基づく認定を受けるなど、さらなる発展が期待されています。

私は、平成21年2月に市長に就任したところですが、亀山市の豊かな自然と固有の歴史、そして各地域に継承された伝統文化など、先人が築かれた誇るべき財産・資源に磨きをかけ、次なる世代へ継承していくために、環境の変化に対応した分権時代にふさわしい自治体経営を行い、市民の皆様が真の暮らしの豊かさを実感できる、持

続可能な『小さくともキラリと輝く街・新生亀山』の創造に全力で取り組んでまいります。

この市勢要覧は、市制施行5周年を記念して発行いたしました。亀山市の多様な魅力を紹介していますので、多くの皆様方にご覧いただければ幸いに存じます。

亀山市長 **櫻井義之**



すべては未来のために

CONTENTS (目次)

キラリと輝く人と街へ…………… 3

[進化するブランド 産業・交通]
進化する亀山のものづくり …… 5-12
 新たな産業を担う
 交流を生み出す地域を実現
 活力に満ちた地域の創造へ

[継続するブランド 歴史・文化]
賑わいのルーツ …… 13-20
 城下町の顔つき 亀山宿
 独特の情景を色濃く残す 関宿
 自然が囲む歴史街道 坂下宿

[共生するブランド 環境・自然]
自然との共生へ …… 21-26

新しい自然空間の創造へ
 エコシティへのとりくみ

[支援するブランド 連携・交流]
こころ安らぎ 人がふれあう …… 27-32
 幸せ拠点をみんなでつくる
 笑顔のたえない地域の実現へ

人々を魅了する 自然スポット…………… 33
 四季を彩る 花風景…………… 35
 未来への礎 歴史と文化…………… 37
 英雄が眠る 伝説の地…………… 39
 まちが煌めく 亀山の祭り…………… 41
 人が集まり ふれあう空間…………… 43
 ふるさと亀山へのメッセージ…………… 45
 市民に身近な開かれた議会へ…………… 47
 豊かな自然・悠久の歴史
 光ときめく亀山…………… 49

進化するブランド

継続するブランド

K

KAMEYAMA BRAND

キラリと輝く人と街へ

“古きよきもの”と“新しいもの”が交差するまち・亀山市
異なる要素が掛け合わせられるとき新たな価値が生まれる
まちの姿も個々の魅力ある取り組み(ブランド)の集まりである
今こそ「亀山ブランド」で地域力を高め
一人ひとりが輝く未来へ

共生するブランド

支援するブランド



進化するブランド
産業・交通
KAMEYAMA BRAND

ひらかれた産業都市である亀山市
地の利を生かし最先端の技術を集結させた
亀山のものづくりはさらなる進化を遂げて
市民の生活に新たな光を届けてくれています

進化する 亀山のものづくり

中部圏の都市開発区域に位置づけられている亀山市は、名阪亀山・関工業団地および亀山・関テクノヒルズへの産業集積により、三重県クリスタルバレー構想の中心的な役割を担う新産業ゾーンを形成して、県土の振興に結びつく拠点づくりを推進しています。

近年においては新名神高速道路の開通や幹線道路網の整備などで、中部圏と近畿圏をつなぐ拠点性が向上。このことから亀山市への産業立地は今後も続くことが予測され、経

済活動の活発化によりこの地域の交通拠点としての機能は一層高まり、市民と来訪者が交流する拠点としても発展することが期待されています。

また、このように計画的な土地開発や巨大な工業団地の整備、企業誘致などに取り組む一方、これからは既存産業および生活を支える地盤産業と力を合わせて、さらなる魅力を生み出すまちを創っていく必要があります。

※クリスタルバレー構想

液晶をはじめとするフラットパネルディスプレイ産業の世界的集積をつくることにより、多様で強靱な産業構造を形成し、活力ある地域づくりを目指す構想です。

※亀山・関テクノヒルズ

名阪亀山・関工業団地に隣接し、三重県クリスタルバレー構想の拠点地区として液晶関連企業の一大集積地となっている工業団地。高速道路からのアクセスの良さが特徴となっています。

新たな産業を担う

地域に活力をあたえてきた地場産業に加え
最先端の技術によって
さらなる発展を見せる亀山の産業
互いの魅力を全国に向けて
効果的に発信していくことで
まちの産業経済活動を支えています

亀 山市において内陸工業都市を形成してきた自動車関連産業をはじめとする既存産業。国内でも高いシェアを誇り、世界でもトップクラスの品質を維持する亀山のローソク。そして近年では液晶関連企業が集積立地し、大規模かつ最先端の設備が稼働。商品の開発や産業に関わる人々の育成・支援に力を入れ、活力豊かな魅力ある地域づくりが進められています。

既存産業と新たに集積された産業によってまちが発展していくことで、将来的には県内外を代表する新産業拠点としての役割を担っていくことが期待されています。

液晶関連産業の集積 ～クリスタルバレー構想の中核に～

「亀山・関テクノヒルズ」には、三重県が進めるクリスタルバレー構想の拠点地域として、液晶関連産業などの企業の集積が進んでいます。

これらの産業集積は、既存産業もさらに活発化し、新しい亀山の産業・社会構造の革新により、人口増や雇用の確保、就業機会の増、製造品出荷額の増など、さまざまな波及効果が生まれています。

中でも、液晶パネル生産から液晶テレビの組立までを行う、世界初の一貫生産工場で生まれる液晶テレビは、「亀山モデル」

という原産地表示により、亀山ブランドが形成され、亀山市の知名度は全国的に知れわたるなど、この情報発信に伴う効果は図り知れないものがあり、亀山ブランドは市民、地域への誇り、自信にもつながっています。

このような効果のほかに、企業社員による「かめやま環境市民大学」への参画、地域での自然環境の保護活動や植樹活動を展開するなど、環境教育、まちづくりといった多様な面でも地域とのよりよい共生が図られています。



液晶産業



～神仏や先祖のための灯明から、心豊かな生活を彩るキャンドルへ～

ローソクの出荷量において日本一を誇る亀山市。誕生日、結婚式など人生のさまざまな節目には、いつもろうそくの灯りがあります。

亀山でのローソクの歴史は、伊勢の宮大工棟梁だった谷川兵三郎が昭和2年に、家族と共にできる仕事として、この亀山市に興した「谷川蠟燭製造所」に始まりました。

その歴史は、80年を超え、亀山のローソクは、その品質を世界に認められ大きく成長しました。

現在では、新しいアイデアや発想を取り入れ、環境に配慮したローソクや線香の開発が進められています。

神仏用ローソクや線香のほか、アートキャンドル、アロマキャンドル、燭台などのオリジナル開発や暮らしを豊かにするさまざまなライフスタイル雑貨の輸入など、ローソクの枠を超え、多岐にわたる製品が世に送り出されています。

また、今や全国的な広がりを見せている100万人のキャンドルナイトのイベントへの協賛など、ローソクを通じて社

会に貢献するさまざまな活動は、亀山市の伝統産業として、この亀山の地域から発信されています。



交流を生み出す 地域を実現

古くから交通の要衝として栄えてきた亀山市
地理的な利点をさらに活かし
まちは市民と来訪者が交流する拠点として
新たな役割を創出し人々に親しまれるまちへと発展していきます

中 部圏と近畿圏を結ぶ交通の要である亀山市。先端産業を有する地として知られていますが、今以上に産業を盛んにして企業集積を進めていくには、人やモノの流れを呼び込むことが重要であるほか、市内で液晶関連等の企業集積を進めていくには、より一層の道路整備が求められます。

平成19年4月には亀山IC周辺の渋滞緩和や利便性の向上を期待して、サービスエリアやパーキングエリアなどから自由に乗り降りできる「スマートインターチェンジ」というETC専用インターチェンジを本格導入。さらに、平成20年2月には名古屋を起点として三重・滋賀・京都・大阪・兵庫を結ぶ新名神高速道路が一部開通し、中部・近畿圏の流通が活性化するとともに、中部国際空港や関西空港により国際的な人やモノの流れが生まれ、さらなる亀山市発展の可能性を見出すことが可能となりました。

また、アクセス機能向上のため幹線道路と集落を結ぶ狭い道路を拡大し、橋梁の耐震補強など災害時に備えた改良整備を行い、道路整備と同様に大切な市民の利便性や安全性の向上にも取り組んでいます。

今後の課題としては、新名神高速道路（四日市～亀山間）の整備、鈴鹿亀山道路や国道1号関バイパス等の整備をはじめ、国道1号の4車線化などを県や国に働きかけることにより、円滑な道路交通を確立していく必要があります。また一方、新たなステージを迎えたりニア中央新幹線建設については、東京・大阪間の早期開通に向け、気運を一層高め、停車駅誘致に取り組まなければなりません。



亀山PA

亀山パーキングエリアにはETC専用インターチェンジ（スマートIC）が併設され、周辺の渋滞緩和や周辺住民・企業等の高速道路利用など、利便性向上が図られています。



活力に満ちた 地域の創造へ

地場産業を大切に育み

魅力あふれる地域を育ててきた亀山市

まちがこれからも輝くために

地産地消や生産者と消費者の交流活動など

さまざまな取り組みを応援していきます

亀 山市では地場産業や農業の育成にも力を入れて
確実に定着させてきました。

温暖で茶づくりに適した土質であることから、千年以上前からお茶の栽培が行われてきました。県内最大規模である茶生産団地「中の山パイロット」で育まれた、上品で濃厚な味と香りが特徴のお茶は「亀山茶」として全国各地に供給されています。

また、食生活の安全が求められるなか、「亀の市」や鈴鹿関宿「まめぞろい」など市内5ヶ所で直販所を開設し、消費者の皆様にご利用いただいています。ほかにも



鈴鹿関宿「まめぞろい」

イベントや学校給食などを通じて地域で生産したものを地域で消費する「地産地消」を促進するなど、消費拡大と地域製品のブランド化に取り組んでいます。

しかし、これら亀山の農業は、高齢化などにより後継者不足が問題になっています。市では、退職後の団塊世代や意欲ある若者を対象にした担い手の育成や支援、農作業の共同化や共同利用機械の導入などを行い、農業経営の安定化を図っています。また、遊休農地を活用した市民農園を開設するなど、農業に関心を持ち、親しめる場づくりを推進。農業を盛んにし、農地を保全することで、将来にわたる食料の安定供給や自然環境の保全、文化の伝承、地域社会の活性化など、多くの機能や役割を果たしています。



亀山茶の手もみ作業

亀山市ふれあい農園
農業を通じた交流や農業への理解向上のため、亀山市が市民農園として貸し出しをしています。農作物を栽培することで、市民の豊かな余暇環境や健康の増進を図ります。

地産地消で地域を活性

食材や製造品など、地域で生産したものを地域で消費し、また生産へつなげようという「地産地消」の活動が全国的に活発化しています。

亀山市でも、さまざまなグループや生産者が地域と連携しながら活動に取り組んでいます。例えば、地元農家や住民有志で育てた野菜などを朝市やイベントで販売したり、スーパーマーケットや道の駅へ定期的に卸すなど、地元の食材をはじめとする生産物を知ってもらい消費につなげることで、地域全体の活性を図っています。



稲刈りの様子



「みえの安心安全食材」自然薯の収穫

K

継続するブランド
歴史・文化

KAMEYAMA BRAND

古くは江戸と京を結ぶ東海道の宿場町として
その賑わいをみせた亀山のまち
市民をはじめまち全体の積極的な保存活動により
この誇りある美しいまちなみが維持されています

賑わいのルールーツ

「亀山市歴史的風致維持向上計画」とは…

平成20年～29年度の10ヵ年に、東海道沿道約19.5km、500haの範囲で、歴史的な建造物等の保存とともに、その周辺を整備するための計画で、「歴史まちづくり法」に基づき亀山市が策定し、国の認定を受けました。

「歴史まちづくり法」の第1回目に認定された都市は、亀山市、金沢市（石川県）、高山市（岐阜県）、萩市（山口県）、彦根市（滋賀県）です。

亀山市は、東西文化が交流する地として栄えてきました。旅人たちからもたらされた文化は、さまざまな形でこの地に根付き、長い年月のなかで少しずつ姿を変えながら、現在の亀山市固有の歴史文化を形づくってきました。

特に「亀山宿」「関宿」「坂下宿」は東海道五十三次の宿場町として発展。「関宿」は昭和59年に重要伝統的建造物群保存地区（国文化財）に選定されました。歴史考証をもとにし

た建物の修理や修景が進められた結果、関宿内で暮らす人々の営みとともに、歴史あるまちなみの風情を取り戻しつつあります。また、「亀山宿」では宿場町だけではなく城下町として、「坂下宿」は鈴鹿峠を越える旅人で賑わった自然豊かな街道としての顔があります。

3宿とも町屋や寺社、そこで行われる伝統的な祭りなど歴史的な風情を残しており、その保存活動に市民も深く関わってきました。亀山市では

平成20年12月に「亀山市歴史的風致維持向上計画」を策定。翌年1月には国が重点的に支援する計画として「歴史まちづくり法」により認定されました。街道の往時の賑わいを取り戻す活動は、これからも力強く続けられていきます。

また、古代三関のひとつである鈴鹿関跡の一部が、平成18年に関宿の観音山公園で確認されました。飛鳥時代に設置され、当時の都を外敵から守る要所となった関です。今も発掘が続い

ており、まちなみ保存とともに、鈴鹿関の範囲確定やその保護に取り組むことが今後の重要な課題のひとつとなっています。

日本の歴史のなかでも重要な役割を担ってきた亀山市の街道筋。そこで生活する人々と旅人たちの交流から生まれた街道文化は市民とともに受け継がれてきました。そして、次の世代を担う子どもたちへと伝統を守り伝えていくための取り組みが続けられています。

城下町の
顔つき

亀山宿

坂 道が多く複雑に折れ曲がった街道が特徴の亀山宿。東西 2.5km にもおよび、西町では格子が連なった町家が今も建ち並び、当時の雰囲気を今に伝えています。亀山城は明治の廃城令でほとんど取り壊されてしまいましたが、多門櫓は現在も昔のまま残されています。これは県内でも唯一現存する希少なもので、県の史跡に指定されています。

城を中心に栄えた亀山宿を歩けば、市民活動により取り付けられた「屋号看板」を見ることができます。現在でも昔の面影を残したままに店を出している所もあるので、屋号を見つけながら歩くのも楽しみのひとつでしょう。また、城下町らしい武家の文化も息づいており、亀山市にのみ伝わる古武道「心形刀流武芸形」は保存会により今に伝えられ、県の無形文化財に指定されています。

亀山城を中心とした地区では、多門櫓や家老屋敷の復元整備など、城下町らしい顔づくりが進められています。

屋号看板



亀山演武場で受け継がれる古武道



かめやまはんおんりゅう ぎんぎょうとうりゅう ぶげいがた
亀山藩御流儀心形刀流武芸形
(県指定無形文化財)

天和2年(1682)に伊庭是水軒光明が創始した武芸の流派で、伊庭道場で奥義を学んだ亀山藩士の山崎雪柳軒により、元治2年(1865)に現在の南野町に道場が設けられました。心形刀流は、亀山藩御流儀として、藩主以下、多くの藩士が入門しました。明治の廃刀令以降、心形刀流は亀山だけに残り、昭和50年に三重県無形文化財に指定。現在は心形刀流保存赤心会により、伝えられています。

INTERVIEW



宿場の賑わい復活一座 代表
鈴木壽一さん

その取り組みとして、まずは住民の協力を得て旧東海道筋の家々の軒先に屋号を記した木札を設置してもらいました。

今後は、道具屋ひとつにしても、どんな道具屋だったかなど分かるような説明を付け加えていき、屋号を通じて昔のロマンを描いていけるようなまちにしていきたいですね。また、まちかど博物館の充実や観光協会との連携体制を整え、いつまでも住み続けたい素晴らしいまちを創っていかれたらと思っています。

当時の賑わいを復活させたい

歴史文化が残る亀山宿から古い建物や路地が消えつつあることから、「かつての賑わいを復活させよう」という思いのある人が集まりグループを結成。

1



1 亀山城多門櫓

2 旧館家住宅(枡屋)

3 加藤家長屋門

4 歌川(安藤)広重画

「東海道五十三次之内 亀山(雪晴)」

5 亀山宿のまちなみ



3

5



4

亀山城を中心とした城下町として栄え
東海道の宿場町としても賑わった亀山のまち
そのまちなみや独自の文化を活かし
城下町らしい顔づくりに取り組んでいます

独特の情景を
色濃く残す

関宿

東海道五十三次で唯一往時の面影を残す
歴史的まちなみであるとともに
多くの人が生活する場でもある関宿
この風情ある空間を維持・整備していくことで
人々が集うまちづくりを推進しています

東 海道有数の宿場町として繁栄した関宿。西の追分から東の追分まで 1.8 km におよび、現存する宿場跡としては東海道上最大の規模を誇ります。昭和 59 年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、昭和 61 年には「日本の道 100 選」に選ばれています。

歴史あるまちなみを残そうと、ひとつひとつの伝統的建造物の修復が進められるとともに市民の活発な取り組みが展開されています。街道筋の無電柱化や、空き家や空き地を利用した集会所や休憩所の整備などにより、ゆっくりと散策できる工夫がされています。江戸時代を彷彿とさせるまでに復元された関宿には、観光客も年々増加しています。

関宿の魅力は風情ある建造物の美しさだけではありません。路面の清掃や庭先の手入れなど、そこに暮らす人々の生活から生み出される美観を保つ心がけや生活感がまちを輝かせています。市では安全で快適な生活ができるよう、居住環境の向上とともに、心のふれあいや、交流が生まれる場所づくりを進めています。

平成 21 年 関宿スケッチ大賞
「知行付の鐘」 橋本美代子



- 1 関宿のまちなみ
- 2 関まちなみ資料館
- 3 関宿旅籠玉屋歴史資料館
- 4 東の追分【県指定史跡】
- 5 西の追分【県指定史跡】
- 6 歌川(安藤)広重画「東海道五十三次之内 関(本陣早立)」

INTERVIEW



関宿「関の山車」保存会 会長
竹田邦彦さん

地域に根づかせ継承していく

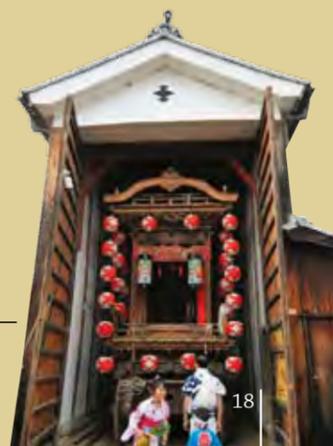
関のまちづくりは、まちなみの保存だけではなく、まちなみに根付いたさまざまな文化をともに守っていくことなんです。だから関宿「関の山車」保存会では、関の山車を後世に継承していくための「山車会館」を造ることと、三重県の文化財指定を受けることを目標として一步一步進めているんです。

保存会では、関の小学校の授業で山車の囃子である太鼓や笛を取り上げてもらって、子どもたちに伝えることをしています。文化を継承していくためには、大人だけではなく、次の世代の子たちに関

心を持ってもらい、その子たちが次へ次へと引き継いでいくことが大事ですね。

関の街道に生まれたからこそ、郷土の歴史・文化を大事にしてまちを育てていくことが、「関のまちなみ」「関の山車」を育てていくということに繋がるのです。そして、みんながそういう気持ちになれば自然に引き継がれていくと思っています。

関の山車



自然が囲む 歴史街道

坂下宿

やっとの思いで峠を越えてきた旅人を
温かく迎え入れこれから越える者には
休息のひとときを与えた宿場の跡
旅人たちを癒した豊かな自然風景は
今も変わらずに広がり
趣ある風情を漂わせています



2



3



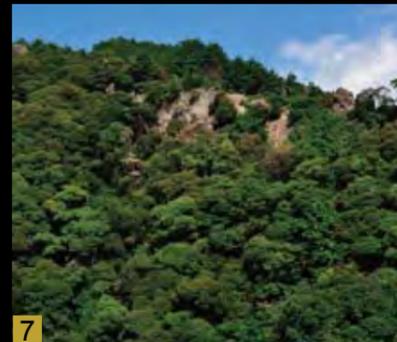
4



5



6



7

- 1 坂下のまちなみ
- 2 片山神社
- 3 岩屋観音
- 4 坂下獅子舞
- 5 鈴鹿峠自然の家
- 6 歌川(安藤)広重画「東海道五十三次之内 阪之下(筆捨峯)」
- 7 筆捨山

旅の難所で東の箱根と対比された鈴鹿峠。三重県と滋賀県の県境にまたがる鈴鹿山の脇を縫うように越えるのが鈴鹿峠越えです。鈴鹿峠の歴史は古く、平安時代には「阿須波道」と呼ばれ、人が行き来していました。江戸時代には参勤交代やお伊勢参りの旅人が多く行きかい、麓の坂下宿は大変な賑わいを見せました。峠越えを控え、往時は戸数 300 余り、本陣3軒、脇本陣1軒と大名家も宿泊する宿場として知られていました。

宿場としての機能が失われ今となっては数十軒の民家と茶畑だけの静かな山間の集落となりましたが、鈴鹿峠中腹の片山神社から山頂にかけての峠道には当時の石だたみなどが所々に残り、「歴史の道 100 選」に選定されるなど、当時の姿を偲ばせています。

峠越えの険しい山道で馬をひいた馬子たちが唄ったとされる「鈴鹿馬子唄」が伝承されており、峠道を歩くと歌声が聞こえてくるようです。



坂下宿本陣跡

素朴な仕事唄を 後世に残すために

INTERVIEW

いろいろな流派の鈴鹿馬子唄がありますが、いま民謡で唄われているのはお座敷唄と変化していった美しい唄。本来は、一人が馬の手綱をもって鈴鹿峠を上り下りする仕事の唄なんです。この原点である唄をそのまま後世に残していくために、正調鈴鹿馬子唄保存会では一人ひとりが唄う力を持つことを目標に活動しています。また、ただ唄うだけでなく、その後ろに隠されている歴史の勉強もしているんですよ。



正調鈴鹿馬子唄保存会 会長
鵜飼 富博さん



鈴鹿馬子唄会館

課題としては、若者が活動に入る機会が少ないこと。今後、後世に繋いでいくために、勉強会を開いて子どもたちに教えたり、さまざまなイベントに参加したりして、多くの人に知ってもらい、絶やすことのないように続けていきたいですね。

鈴鹿馬子唄
坂は照る照る鈴鹿は曇る あいの土山雨が降る
馬がものいうた鈴鹿の坂で おさん女郎なら乗しよというた
坂の下では大竹小竹 宿がとりたや小竹屋に
手綱片手の浮雲ぐらし 馬の鼻唄通り雨
与作思えば照る日も曇る 関の小方の涙雨
関の小方が亀山通い 月に雪駄が二十五足
関の小方の米かす音は 一里聞こえて二里ひびく
馬はいんだにお主は見えぬ 関の小方がとめたやら
昔恋しい鈴鹿を越えりや 関の小方の声がする

自然との 共生へ

鈴鹿国定公園を代表に豊かな自然環境に恵まれた亀山市
私たちの暮らしに大きな役割を果たす自然を守り
環境への取り組みを進めることで
快適に暮らすことのできる「エコシティ」を実現していきます

地球温暖化をはじめ、森林破壊や大気汚染など、環境問題は今や世界的な問題です。その中で、環境問題に積極的に取り組み、循環型社会の実現を目指す亀山市。公共施設における太陽光発電システムの導入などを進め、ごみの適正処理、公害や環境汚染の防止など、環境に配慮した活動を行っています。

また、企業誘致が活発な亀山市ですが、立地企業の中には、先端技術を活かしたクリーンエネルギーの設備を稼働させているところもあり、環境負荷の少ない企業誘致に努めています。そして、緑あふれる美しいまちづくりを進めるため、宅地開発には、植樹による緑化の推進を図り、良好な景観に配慮した開発の誘導に努めています。ほかにも、里山の保全や森づくり、景観の保存など、市民・企業・行政が一体となって都市づくりに取り組んでおり、亀山市総合環境研究センターではこれら三者の連携や協働のもと、時代を先取る有効な環境対策や研究が進められています。

環境を考えるきっかけづくりとして、同センターでは2005年から「かめやま環境市民大学」が開講され、多くの人が参加しています。

新しい 自然空間の創造へ

自然環境や生態系の保全に努める活動を通して
荒廃が見られる森林や里山を復元
自然とのふれあいや環境を学ぶ機会を創出し
人々にやすらぎを与える空間を創造していきます

数 多くの野生動物が生息し、豊かな自然に恵まれた亀山市。これらの優れた環境は、市民の自然体験やふれあいの場となっています。こうした環境を活かしたまちづくりを行い、自然の美しさを守る取り組みとして「亀山里山公園・みちくさ」、「かめやま会故の森」、「(仮称)森林公園」があります。「亀山里山公園・みちくさ」では荒廃が進む里山を復元。自然とふれあう場と同時に憩いの場、環境学習の場として利用されています。

また、「かめやま会故の森」は水源のかん養、土砂災害の防止、野生鳥獣の生息の場など、森林の持つ働きを最大限に発揮できるよう整備。間伐作業や植樹を行い、森の保全活動にも積極的に取り組んでいます。

市民が自然と向き合い、親しめるやすらぎの空間として「歩ける森・遊べる森・育てる森」をテーマに森づくりを進め、市民、企業、行政が協働して森の手入れや保全に取り組んでいます。

さらに、加太地域内で整備を進める「(仮称)森林公園」では、整備構想策定の段階から、地元コミュニティや環境市民大学院生が積極的に参加し、整備体験なども行っており、開園後の活用面も含め、これら市民と協働して進めています。

なお、加太小学校の5・6年生で構成される「みどりの少年隊」では、エコ活動の一環として植樹や登山などを行い、自然とふれあうことで森林の機能を理解し、守り育てることの大切さを学んでいます。



環境フェスティバル



みどりの少年隊による間伐体験



かめやま会故の森環境整備活動

～「歩ける森・遊べる森・育てる森」づくり～

平成20年4月から、関町市瀬地内の市有林で、市民・企業・行政から組織されるかめやま会故の森環境整備協議会により、自然に触れ合える機会を創出しようと、憩いの場、また環境学習の場とする森づくり活動が進められています。

整備の内容は、下刈り、間伐、植樹、歩道整備、案内看板等の設置などで、整備面積は、約2.25haです。また、整備と併せて、自然観察会や森林作業体験、木工教室などの、森の中で、森と親しむ体験活動も行っています。

現在では、この活動に、市内15企業が参加し、また、亀山市加太みどりの少年隊も参加したりと、森づくり意識は、少しずつ広がりを見せはじめています。

平成25年3月まで、協議会が主体となって、「歩ける森・遊べる森・育てる森」づくりを進めていきます。

かめやま環境市民大学

亀山市総合環境研究センターでは、市民の皆さんに亀山の環境について学んでいただく場として「かめやま環境市民大学」を開講。豊かな自然を将来に継承していくために、地域が一体となって環境団体（NPO）や行政、企業、学校と共に取り組んでいます。





エコシティへのとりくみ

ゼロ・エミッションを目指し

ごみの再資源化やリサイクルを推進している亀山

環境に配慮したシステムで循環型社会を構築していきます

環境問題への関心が年々高まりを見せ、あらゆる方面で環境負荷の軽減が求められているなか、亀山市では環境対策として、新エネルギーの導入や普及、ごみの再資源化や公害・環境汚染の防止などに取り組んでいます。

総合環境センターに導入されている溶融炉の特長は、有害成分の発生抑制に優れ、多様なごみを一括処理できること、ごみを再資源化・再利用できることです。高温溶融処理されたごみはスラグやメタルとして再資源化されるので、埋め立て対象は飛灰のみになり、最終処分場の大幅な延命化が図れます。また、ごみの熱エネルギーを電力として活用するなど、資源の循環システムを実現しています。

これらの取り組みを進め、環境を考えた循環型

社会を形成するためには、市民一人ひとりの意識をさらに高めていくことも重要です。環境負荷の少ない製品購入を促進する「グリーン購入」の普及や、温室効果ガスの削減を目的とする国民的プロジェクト「チームマイナス6%」への参加を促進していきます。また、レジ袋削減に向けてマイバッグ持参を促す取り組みを行うなど、環境に配慮した生活様式の定着に努め、エコシティの実現を目指します。



レジ袋削減・マイバッグ推進



総合環境センターでは、溶融炉の説明など「子どもたちへの環境学習会」が行われます。



刈り草コンポスト化センター

平成18年度から、刈り草コンポスト化センターにて年間約1,000トンの搬入された刈り草をたい肥化し、地域のみなさまに活用いただいています。

溶融炉

亀山市では、平成12年度から直接溶融方式によるごみ処理施設を稼働しており、年間約22,000トンのごみを処理しています。2つの縦型シャフト炉で1日80トンのごみを処理することができ、1,800℃の高温でごみを溶かし、スラグ・メタルとして再資源化を行っています。三重県で初めての廃棄物発電も行っており、発電した電力は施設内で使用するほか、余剰電力は電力会社に売却、また、旧最終処分場を再生するため、過去に埋め立てたごみを掘り起こして処理する取り組みも実施しています。

今後も施設を長く使用できるよう、経費節減に努めながら適正処理を行っていきます。



ごみの装入

資源ごみを分別した後の、一般ごみ、破砕物(残渣)、掘起こしごみを装入します。副資材としてコークスと石灰石を添加します。

乾燥・予熱帯(約300℃)

ごみは約300℃に熱せられ、ごみ中の水分を蒸発させ乾燥します。

熱分解帯(約300℃~1000℃)

乾燥されたごみは次第に降下し、酸素の無い状態で高温にさらされ、有機物は熱分解により一酸化炭素、水素、メタン等を含む可燃ガスとなって燃焼室に送られます。ガス化された残りの灰分及び金属、陶磁器、ガラスなどの無機物が、次の燃焼・溶融帯に降下します。

燃焼・溶融帯(1700℃~1800℃)

溶融帯に到達したコークスが羽口から供給される空気と急激に発熱反応して高温高熱を発生し、熱分解帯より降下してきた灰分及び不燃分が完全に溶融され、溶融物(スラグ・メタル)となって排出されます。

溶融炉本体

熱分解炉と溶融炉を一体化した高効率でコンパクトな縦型シャフト炉です。ごみの水分を蒸発させる乾燥・予熱帯、可燃分をガス化させる熱分解帯、灰分・不燃分を溶かす燃焼・溶融帯を一つの炉の中にもっています。炉内は堅固な耐火物構造で、駆動部の無いシンプルな構造です。

「掘り起こしごみ」の処理

既設最終処分場に埋め立てられたごみを掘り起こし、篩機で土砂と磁着物を分離します。

その後、一般ごみと共に溶融処理します。これにより、最終処分場を再生させ、総合環境センター内の新たな用地として活用できることになります。



支援するブランド
連携・交流
KAMEYAMA BRAND

こころ安らぎ 人がふれあう

子どもからお年寄りまでみんなに優しいまちへ
人と人のふれあいを大切に助け合うこころを育み
まちを笑顔でいっぱいにする
地域交流のネットワークを築いていきます

生活様式の変化に伴う生活習慣病の増加や
少子化問題など、刻一刻と変化している社会。
健康的な暮らしを守り、次世代を担う子どもたち
が未来に希望を抱いて健やかに成長していける
環境や、高齢者が生きがいを持って元気に暮ら
せるための仕組みを築いていくことが重要な課題
となっています。

そこで、亀山市では保健・福祉・医療が連携
した総合窓口として、温泉施設を併設した総合
保健福祉センター「あいあい」を拠点に、健康
づくりや高齢者・障がい者の在宅支援・子育て

支援などのきめ細かなサービスを提供しています。

なかでも子どもの発達についての専門職がそ
ろった、とぎれない支援のための「子ども総合支
援室」を設置するなど、亀山独自のさまざまな活
動・支援を行い、多様化していく市民のニーズ
に応え、さらなる質の向上に取り組んでいます。

また、地域医療の中核となる医療センターで
は、市民に信頼される病院を目指し、良好な医
療の提供、さらには患者や家族に対する相談業
務の充実に努めています。



市立医療センター

総合保健福祉センター
「あいあい」





INTERVIEW



保健福祉部子ども総合支援室
(臨床心理士)
志村浩二 室長

保健・福祉・教育・医療の 一体となったネットワークづくり

0～18歳の子どものがとぎれない支援を受けて育っていくために、平成17年度から開設されたのがこの子ども総合支援室です。保健・福祉・教育・医療が連携し、臨床心理士やケースワーカー・教員・保育士・保健師、そして相談員など、子どもの育ちのために必要な専門家がそれぞれのスキルを使って相談に応じたり他の機関に働きかけたりするシステムは全国的にも珍しく、「亀山モデル」として注目を浴びています。

私たちは十分な支援をしていくために相談や面接を重視していますが、相談・面接件数は年々増加傾向にあります。そのため、対応するまでの待ち時間がかかってしまう場合があり、その時間をいかに少なくできるかが現状の課題となっています。

また、これからは18歳を過ぎた方々への支援や、さまざまなハンディーキャップをお持ちの子どもたちへの支援を充実させるために、いろいろとところとの連携体制で取り組んでいき、将来的には一人でも多くの方が『亀山市に来て子どもを産み、育てていきたい』と思ってもらえる街をつくっていくことが必要だと感じています。

幸せ拠点をみんなで作る

市民一人ひとりの福祉向上と健康保持を目指し
安心して暮らせるサービスの提供や活動をサポート
ふれあいの場となる交流拠点づくりを推進しています

保 健・福祉・医療が連携した総合窓口として設立された亀山市総合保健福祉センター「あいあい」では、人とのふれあい交流や健康づくり、高齢者・障がい者の在宅支援、子育て支援など、子どもからお年寄りまで切れ目のない一体的な支援やサービスを提供しています。

子育て支援の「亀山モデル」といわれる「子ども総合支援室」では、臨床心理士・保健師・保育士など専門スタッフが子育てのサポートや相談に応じ、0歳から18歳までの子どもとその家庭に一貫した支援を提供。また、プレイルームののびのび教室やお

もちゃ図書館、図書絵本コーナーなど、子どもの情操を豊かにするさまざまな活動も行い、子どもの育ちを支えています。

さらには、すべての市民が利用できる運動機器を整備するほか、健康意識を高め市民の健康づくりへの自主的な活動を促進するなど、統一されたサービスを提供するネットワーク拠点として、地域ぐるみでの保健福祉の充実を図っています。

また、施設内には温泉施設「白鳥の湯」や雑木林を活かしたふれあい広場なども併設し、憩いの場や交流の場としても利用しています。



白鳥の湯



あいあいトレーニング室

笑顔のたえない 地域の実現へ

地域と連携のとれた教育を推進するとともに
豊かな人間性をはぐくみ市民一人ひとりが輝く社会を形成
だれもが住みなれた地域で
明るく健やかに暮らせるまちづくりを目指していきます

古 来より交通の要衝で多くの旅人たちが往
来した亀山市。その旅人たちがもたらした
情報をもとに、昔から熱心な教育が行われてきた
地でもありました。

保育においては、仕事と子育てが両立できるよ
う一時保育や延長保育など、保護者のニーズに
あった保育を推進。小中学校の教育において
は、少人数授業など一人ひとりに向き合うきめ細
やかな指導体制づくりを行うほか、豊かな自然を
通じた環境教育や伝統文化・地域性を活かした
教育に力を入れています。

また、子どもたちが安心して活動できるよう「ふ
れあい教室」や「青少年総合支援センター」を
開設し、専門スタッフによるサポート体制も整えて
います。

さらに亀山市では、いきいきと輝く地域をつくっ
ていくために「亀山市生涯学習計画」および「亀
山市スポーツ振興計画」を策定。これに基づい
て地域に根づいた生涯学習・生涯スポーツを推
進しています。



小萬の湯

2009年10月にオープンした関宿の観光駐車場横にある足湯交流施設。住民や観光客が無料で気軽に温泉を楽しめる新たな交流の拠点となっています。



水泳教室



生涯学習フェスティバル



江戸の道シティマラソン



鈴鹿国定公園 (関ロッジ周辺)

鈴鹿国定公園内にある関ロッジ周辺にはたくさんの遊歩道があり、自然散策が楽しめるようになっています。また、敷地内には芝生公園や野外アスレチックコースが設けられており、子どもが楽しめる機能車広場もあります。



東海自然歩道

亀山市内では、石水溪や坂本棚田、鈴鹿峠、加太不動滝などバラエティ豊かな歴史・自然スポットが点在しています。



野登山

昔から地元の人々に「ののぼりさん」と親しまれ、自然の魅力あふれる豊かな山。ブナを中心とした落葉広葉樹の原生林は県の天然記念物に指定。また、山頂にある野登寺境内の参道には樹齢数百年を越える大杉が立ち並んでいます。



坂本棚田

のどかな田園風景が広がる坂本棚田は、平成11年「日本の棚田百選」に選ばれました。棚田にしては珍しい石積みの基礎があり、城壁のような迫力と美しい景観をあわせもっています。

人々を魅了する 自然スポット

貴重な自然と優れた景勝地をもつ亀山
身近な緑や水辺にふれあえるスポットとして
多種多様な動植物の住処として
豊かな自然はさまざまな表情をみせてくれます

石水溪

市内随一の景勝地であり、鈴鹿川の支流、安楽川の源流である石水溪。花崗岩の岩肌を清流が流れ落ち、深山幽谷の風情が漂います。周辺にはキャンプ場のほか、東海自然歩道が通っており、四季を通じて美しい景色が楽しめます。



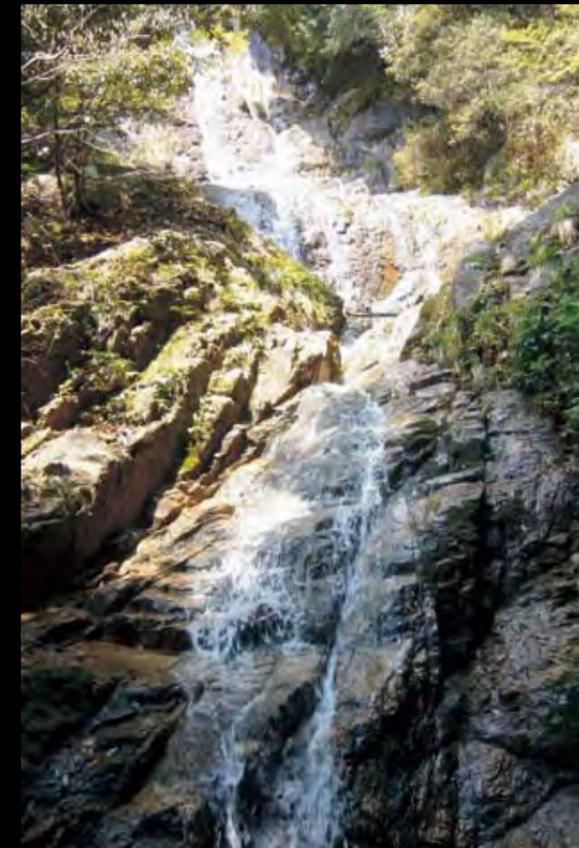
錫杖ヶ岳

標高676mの頂上からは伊勢平野を一望でき、さらに伊勢湾や知多半島まで見渡せる錫杖ヶ岳。登山客に人気があり、古くは雨乞いの山として知られていました。



鈴鹿川

鈴鹿山脈の麓から伊勢湾に注ぐ清らかな鈴鹿川。古くは街道を行き交う旅人を癒した川でもありました。



不動滝 (仙ヶ岳)

落差約100mの鈴鹿山系最大級の滝で、鈴鹿川水系矢原川上流にあります。



観音山公園 (あじさい)
四季を通して花などの自然が楽しめる森林公園。6月上旬～下旬にかけては、遊歩道入り口付近にあじさいが咲き誇り、青や紫の見事なグラデーションを見ることができます。

菖蒲園 (花しょうぶ)
亀山公園内にあり、県下最大級の広さを誇る菖蒲園。東屋や菖蒲に囲まれた細道などがあり、6月頃には色鮮やかなショウブが満開になります。



正法寺山荘跡 (桜)

中世の時代（鎌倉～戦国時代）に鈴鹿亀山地域一円を治めた豪族関氏の砦をかねた山荘跡です。有名な連歌師宗長などもここを訪れ、歌会を開いていたようです。昭和52年からの発掘調査により明らかになったもので、戦国武士の生活を解明する上で貴重であり、昭和56年に国の史跡指定を受けています。今は約200本の桜の名所であり、多くの花見客で賑わいます。



太岡寺畷 (桜)

今は桜が植えられていますが、江戸時代には松並木が続いていたそうです。鈴鹿川の左岸に沿って約2kmの道は東海道で最も長いなわて道と言われていました。

安坂山町 (みつまた)

Viewpoint of Kameyama
四季を彩る花風景

まちを華やかに装う季節の花々
四季折々に彩り
人々に笑顔をもたらすその豊かな自然を
いつまでも大切にしていきたいものです



太巖寺 (ふじ)

太巖寺には樹齢130年を超えるふじの木があり、ふじの名所として有名です。5月の連休頃見ごろを迎え、1mを超える房が並ぶ姿はまるでふじのシャワーのようです。



宗英寺 (イチョウ)

樹齢600年以上と推定される県内最大のイチョウ。古くから宗英寺を通称「イチョウ寺」と呼ぶほど有名で、昭和12年に三重県の天然記念物に指定されました。雌株なので、秋になればたくさんの銀杏が実ります。



コスモス畑

畑一面に広がる秋の代表花コスモス。見頃となる10月中旬には、太田地区、三寺地区でコスモスマつりが開催され、楽しい催しで賑わいます。



片山神社 (紅葉)

四季を通して趣きある景色が楽しめますが、特に美しいのは秋の紅葉。たくさんの人が紅葉狩りに訪れます。片山神社は昔から地元だけでなく東海道を行く旅人からも厚い信仰を集め、さまざまな旅行記にも登場しています。

亀山城 (雪花)

白壁の櫓、門、土堀の姿形が優雅である亀山城。雪が降り積もった姿は、またいつもと違った美しさが楽しめます。





亀山城多門櫓

〈県指定史跡〉
※指定名称は「旧亀山城多門櫓」

三重県で唯一現存する城郭建造物。多門櫓は高石垣上にあり、外敵を防ぐ施設として活用されました。平時は武器庫としても利用されたようです。また、桜の名所でも知られ「亀山城桜まつり」の時期には多くの人々が賑わいます。



未来への礎 歴史と文化

まちの移り変わりを見守ってきた文化財の数々
この魅力ある歴史文化遺産を守り
活かしていくことは
まちの未来に向けた礎となります

鹿伏兎城跡

〈県指定史跡〉
関5家のひとつ鹿伏兎氏の居城跡。山頂付近には土塁や石垣などが残り、杉林に囲まれた城内には当時の面影が偲べれます。



地藏院本堂・鐘楼・愛染堂

〈国指定重要文化財〉
地藏院は、天平13年(741)奈良東大寺を建立したことで有名な行基が、国中に流行した天然痘から人々を救うため創建したといわれています。



峯城跡

〈県指定史跡〉
鈴鹿川の支流である安楽川と御幣川が合流する丘陵上にある関5家のひとつ峯氏の居城です。現在は、杉林・竹藪化していますが、虎口・二の丸・本丸があり、かなり大きな城でした。

野村一里塚

〈国指定史跡〉
現在、三重県下で唯一原型をとどめる一里塚。日本の交通史にとって貴重な遺跡です。一里塚の上には塚ができたときに植えられた棕の木があり、約400年間街道を見守り続けています。



慈恩寺 阿弥陀如来立像

〈国指定重要文化財〉
高さ163cmの一木造(いちぼくづくり)で、平安時代初期を代表する彫刻です。幾度かの兵火を逃れ、奇跡的に今に伝えられています。



日本武尊御墓

英雄が眠る 伝説の地

日本神話に登場する古代の英雄
ヤマトタケルノミコトが眠る亀山の地
その伝説は訪れるすべての人々に
歴史ロマンを感じさせてくれます

伊吹山で病となったヤマトタケルノミコト（「日本武尊」・「倭健命」）は、故郷である大和国へ向かう途中ノボノで亡くなりました。能褒野の地には、墓が築かれたと「日本書紀」や「古事記」にも記述されています。その墓の所在は、長く謎となっていました。丁字塚が、明治12年に内務省により「日本武尊御墓」と定められ、宮内庁に管理されるようになりました。周辺には能褒野神社や、のぼのの森公



能褒野神社



忍山神社

オトチバナヒメは忍山神社の祀官であったオシヤマノスクネの娘として伝えられています。

園があり、歴史と自然の特性を活かした緑豊かな憩いの場が形成されています。

また、ヤマトタケルの妃のひとり、オトチバナヒメの出身地が亀山であるとも伝えられています。能褒野神社内には、2株の榊から伸びた枝がひとつに繋がった珍しい榊があり、ヤマトタケルとオトチバナヒメがお互いの手を差し伸べている様子に例えられています。

大和街道 ~やまとかいどう~

東海道関宿「西の追分」から加太峠を越えて伊賀を抜け、奈良に至る大和街道。東海道と並んで近畿と東国を結ぶ主要街道でした。

加太梶ヶ坂から板屋へ抜ける小さな峠道は近隣では唯一地道が残り、かつての姿を留めています。



金王道 ~こんのみち~

関町古厩から鈴鹿市岸岡町までの約16kmを結んだ道で、源義朝の家来である渋谷金丸丸が、謀殺された主人の訃報を都にいる常盤御前に伝えるために通った道であることから、この名が伝えられています。

また、徳川家康も本能寺の事件を知り、急ぎ三河に帰る際、この道を通ったともいわれています。

市南部に継続的に残っており、人々の努力で道が整備され、ウォーキングも開催されています。



安楽越え ~あんらくごえ~

険しい鈴鹿峠の北側に安楽峠があり、石水溪から滋賀県の山原女に通じる間道や、伊勢国・都・近江をつなぐ道として使われていました。

主に生活道として四十数年前まで使われていましたが、現在は苔むした古道になっており、東海自然歩道に指定されるなど、自然を楽しめる景勝地となっています。



やま
関宿夏まつり・関の山車 (市指定文化財)

関神社の祭礼で、旧東海道を中心に神輿や曳山が町内を練り歩く活気あふれる夏の風物詩。昼には1台の神輿が、夜には絢爛豪華な4台の山車が巡行。かつては関西五大祭のひとつとされ、江戸時代、多いときには16台もの山車が街道を練り歩いたといえます。

見どころは「舞台まわし」と呼ばれる山車の回転。山車の上部が回転し、ちょうちんの明かりの軌跡が幻想的な雰囲気を盛り上げてくれます。



傘鉾 (市指定無形文化財)

祭神スサノオノミコの荒魂をなぐさめるための神事。厄除けになるといわれる傘鉾(径約1.5m、高さ約4mの竹で作られた大傘)に取り付けられた御幣や色紙を氏子たちが争って奪い合う行事で、奪い合った色紙は一年の無事を祈って各家庭の神棚に祀られます。



かんこ踊り (市指定無形文化財)

雨乞いや豊作祈願、先祖供養のために行われ、踊られる伝統的文化財。地区によって勇壮であったり、優雅であったりさまざまで、現在では川合町・阿野田町・安坂山町・加太市場・加太向井・加太板屋・加太中在家・加太北在家の8町に伝わっています。

Viewpoint of Kameyama
まちが煌めく
亀山の祭り

華やかにまちに彩を添える祭りの数々
この地で培われてきた歴史文化を育てていくとともに
新たな挑戦で地域のつながりを強めていきます

主催：亀山市納涼大会実行委員



亀山市納涼大会

8月に行われる納涼大会では市民団体や企業も協力し、多彩なイベントや郷土芸能などが繰り広げられ、市内外の多くの人々に親しまれています。



関宿納涼花火大会

スターマインや仕掛け花火、音楽に合わせたファイアーミュージカルなど、バラエティ豊かな花火が打ち上げられます。8月下旬、鈴鹿川の河川敷には毎年たくさんの方が盛大な花火を楽しみに訪れます。



東海道関宿街道まつり

関宿を会場に、東の追分から地蔵院までの約1kmの街道を時代行列が練り歩くほか、仮装コンテストなどの催しが行われ、往時の賑わいが再現されます。



亀山市

100年以上の伝統があり、亀山市最大の冬の名物行事である「亀山市」。亀山の地域では昔から旧正月を祝う習慣があり、その準備用に大売出しを始めたのがきっかけといわれています。中心商店街が歩行者天国となり、多くの露店が軒を並べるほか、多彩なイベントもあり、毎年たくさんの人で賑わいます。

Viewpoint of Kameyama

人が集まり ふれあう空間

亀山市を最もよく知る市民が主体となって市民と行政が連携しながらまちづくりを推進
多彩な活動を展開し交流を育んでいくことで真に豊かで個性的なまちを創っていきます



男女共同参画

亀山市では「男女が生き生き輝く条例」を制定。市民、事業者、各種活動団体、教育に携わる者が協働し、家庭生活・仕事・地域活動等の両立に努めています。

そのような中で“いどばたクラブ”の愛称で知られる市民ボランティアでは、男女共同参画社会の実現に向けて「男の料理教室」や「男女交えての座談会」など、さまざまな活動に取り組んでいます。



男の料理教室

市民参画の促進

行政主体のまちづくりから市民が参画できるまちづくりを目指し、パブリックコメントの導入や市民交流の場「きらめき亀山 21」の開催など、市民が積極的に参画できる機会づくりに努めています。

また、平成 19 年度には、市民と行政が一緒になって「協働の指針」を策定。平成 20 年度からは、市民の提案が市の事業になり、行政が提案した事業に市民が対等に取り組むという画期的な制度を取り入れた協働を推進しています。



亀山・商店街 in ART



食の祭典

外国人との共生と 国際交流

市内に住む外国人は2,500人を突破。市民交流がきっかけで作られた「KIFA・亀山国際交流の会」。毎年、それぞれのお国自慢や料理、ゲームやおはなしの会など子どもから大人まで交流できるKIFAMIGO（キファミーゴ）を開催しています。

また、市では日本語教室を開催し、日本語の学習のみならず、日本の文化を学習したり、暮らしに関する相談を受けたりすることで、幅広い交流の場となっています。



KIFAMIGO（キファミーゴ）



防災訓練



幼児への防犯指導

安心安全な暮らしづくり

人口の増加にともない、より広い範囲を視野に入れた防災や防犯が必要とされています。

自主防災組織の育成強化、避難所の整備、誘導標識の設置や、防災マップを配布して防災意識を高めるなど、今後、予測される災害に対処し、地域と密着した実践的な防災・消防・医療体制の整備で、災害時の被害を最小限に抑える取り組みを行っています。

また、「亀山市防犯委員会」などによる市民組織でパトロールなど自主的な防犯活動が活発化し、地域ぐるみで犯罪防止に取り組んでいます。



消防操法大会

Newspoint of Kameyama

ふるさと 亀山へのメッセージ

亀山市名誉市民

彫刻家

中村晋也

1926年（大正15年）生まれ

鈴鹿川は少年時代の記憶を蘇らせる。有難い。変わらぬ風景は尚強烈。懐かしい亀山は城下町の余韻を残しながら、新しい息吹を私に示してくれる。五万の都市と聞く。未来に大きく伸びるだろう鼓動が聞こえてくるようだ。

2歳から22歳まで三重県鈴鹿郡井田川村（現亀山市）に在住。東京高等師範学校（現筑波大学）卒業後は、鹿児島を拠点に精力的に作品づくりに取り組み、「焦躁の旅路」で文部大臣賞、「朝の祈り」で日本芸術院賞などを受賞。特に、1995年（平成7年）に発生した阪神淡路大震災被災者の鎮魂のために制作を始めた「ミゼレーレ」シリーズや「釈迦十大弟子」像は、造形対象をより深く掘り下げた精神性を帯びた芸術の真髄ともいえる代表作で、常に変化し続ける独創的な作風と、その優美な芸術性は、国内外で高く評価されている。2007年（平成19年）文化勲章受章



わたしの宝物



提供：読売巨人軍

私にとって亀山市は、大切な故郷であると共に心の原点でもあります。

東小学校の校庭を朝から晩まで走り回った思い出は今もセピア色の光景として残っています。

そして平成21年10月には、ここ亀山で、小学校時代の友人達によって学童野球大会「豊田清杯」も開催する事が出来ました。

亀山で育んだ心の絆は、私の心の支えになっています。

PROFILE

1971年（昭和46年）亀山市に生まれる。
経歴：鈴鹿高一同朋大-西武（'93～'05）-巨人（'06～'10）-広島（'11 現役引退）
ポジション：投手 投打：右投右打
〈初登板〉'95.9.15 対近鉄 23 回戦 藤井寺
〈初勝利〉'96.7.14 対タイガー 17 回戦 札幌
〈初完投勝利〉〈初完封〉'96.9.1 対ロッテ 23 回戦 西武
〈初セーブ〉'00.10.8 対日本ハム 27 回戦 西武ドーム
〈タイトル〉最優秀救援投手賞（'02、'03）

読売巨人軍

豊田 清

亀山市市制5周年おめでとうございます。

私は亀山市で生まれ、高校卒業までの18年間を過ごしました。今も、親族、友人が亀山におり、年に数回帰省しますが、シャープの工場や道路の発展等、新しく変わっていく姿と、変わらず残る豊かな自然の風景に喜びと安らぎを感じます。

今後も亀山市の発展を心より願うとともに、私自身も俳優として成長していきたいと思っております。

PROFILE

1972年（昭和47年）亀山市に生まれる。高等学校卒業まで亀山市に在住。1990年（平成2年）に第3回「ジュノン・スーパーボーイ・コンテスト」でグランプリ受賞。デビュー作品は、1991年放送ドラマ「ヴァンサンカン・結婚」「仮面ライダークウガ」「真珠夫人」でブレイク。時代劇に出ることも多く、ドラマ「大奥」では徳川家茂役を好演した。ドラマ「渡る世間は鬼ばかり」に長女（藤田朋子）の義妹の夫として出演するなど、ドラマをはじめ、映画、舞台などで活躍中。

趣味 車 ドライブ 音楽 アウトドアスポーツ
特技 サックス

俳優

葛山信吾

Viewpoint of
Kameyama

市民に身近な 開かれた議会へ

亀山市議会は、市民の代表として選挙で選ばれた18名の議員で構成され、同じく選挙で選ばれた亀山市長とともに亀山市の代表機関です。

今、地方が主体となる新しい地方自治の時代を迎え、地域におけるまちづくりを、さらに自主的かつ総合的に実施していくことが地方自治体に期待されています。

このような中、二元代表制のもと、市政の一翼を担う市議会はその役割を十分認識し、市民の声を積極的に受け止め市政に反映するなど、市民の期待と信頼に応え、豊かな亀山市の実現に向け活動しています。

議会は定例会が年に4回と、必要に応じて開催される臨時会があります。

その他に、「総務委員会」「教育民生委員会」「産業建設委員会」「予算決算委員会」の4つの常任委員会が設置されています。また、専門的な調査や研究を行う必要がある案件を審査する特別委員会も必要に

応じ設置されます。

これら議会の活動の様子は、ホームページや市議会だよりで、またケーブルテレビやインターネットで議会中継や議会報告番組の放送を行うなど、市民に広く情報を公表しています。

今後さらに、市民に身近な議会、開かれた議会を目指していきます。



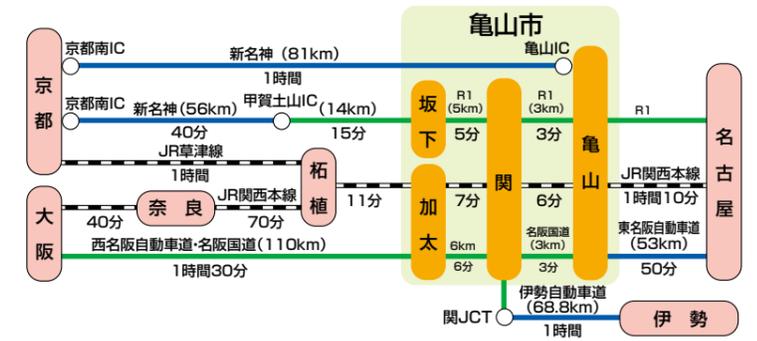
副議長 鈴木達夫

議長 前田 稔





豊かな自然・悠久の歴史 光ときめく亀山へ



市章

亀山市の特徴である豊かな自然や歴史文化を守り、さらに高めていく姿を大きな山並みとして表し、曲面（ウェーブ）はときめく亀山市の限りない発展を表しています。



市の木

市の木「杉」は、野登寺の杉並木や川俣神社、片山神社のご神木の杉など、市内を代表する歴史的な背景を持つ史跡とともに、古くからなじまれてきた木です。



市の花

市の花「花しょうぶ」は、亀山公園内の菖蒲園に100種2万株の花が咲き誇り、毎年6月には「花しょうぶまつり」が開かれるなど、なじみ深く親しみのある花です。



三重県 亀山市役所

〒 519-0195 三重県亀山市本丸町 577 番地

TEL 0595-82-1111(代表) FAX 0595-82-9955

URL <http://www.city.kameyama.mie.jp>